

第4章 諏訪地域の観光開発の現状と展望に関する考察

目次

はじめに

I 長野県の観光の現状

II 諏訪地域（岡谷市，諏訪市）の産業の比較

III 諏訪地域の観光開発

1 諏訪地域の概要

2 岡谷市の観光開発

3 諏訪市の観光開発

IV 東信地域（上田市，佐久市）と諏訪地域の観光の比較

V まとめ

はじめに

平成20年10月1日に観光庁が設置されたが、長野県は観光立国を総合的かつ計画的に推進するために国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを目指している。これを踏まえ観光振興5カ年計画（2008-2012年）に基づき実現に向けている。具体的には4つの具体的な達成目標として「もう1箇所」「もう一泊」「もう一コイン」「もう一度」を掲げて活動している。

長野県の代表的な観光都市、岡谷市と諏訪市の特徴は以下の通りである。

岡谷市は第4次総合計画（2009-2018）の前期基本計画（2009-2013）の中で基幹産業としての製造業を中心とした産業振興を図り、安全で安心して暮らせるまちの実現を目指している。岡谷市のイメージは「湖」「山」「観光地」である。「諏訪湖パスポート」に紹介されている観光としては「鶴峰公園つつじ祭」（5月）、「岡谷太鼓祭」（8月）、「鳥居平やまびこ公園（ラベンダー公園など）」である。又、今回訪れたかつては日本の糸都として栄え「シルクのまち」と呼ばれる岡谷は産

業観光にも力をいれており近代産業遺産、製糸の歴史が色濃く残る芸術・文化のまちでもある。「旧林家住宅」「旧渡邊家住宅」「市立岡谷蚕糸博物館」「岡谷絹工房」はかつての製糸の岡谷を伝えており当時の状況が把握できる。

一方、諏訪市は諏訪湖や霧が峰高原のほか豊富な温泉といった自然資源や諏訪大社をはじめとする歴史や伝統文化遺産に恵まれ、また蓄積された高度精密機械に裏打ちされたハイテク産業を擁し地域の中核都市として発展している。諏訪市では「豊かな人間性あふれるいきいきとした美しいまち」を将来像として掲げ個性的で魅力ある環境文化都市を築くことを目指している^(注1)。

両方の都市は諏訪湖を挟んで類似点や相違点のある特有の観光があることから比較検討し、更に諏訪地域の活性化の方策を提言する。これは長野県全体の観光の底上げにもなろう。

I 長野県の観光の現状

1 概観

平成19年1月に施行した「観光立国推進基本法」、平成20年10月1日に設置された観光庁の設置^(注2)は21世紀の日本の観光の取り組みを示している。

長野県でも観光振興基本計画（2008-2012）を策定し将来に向けた再建計画を立てている。長野県の観光は平成5年の善光寺御開帳と平成10年の長野オリンピックのピークに観光旅行者数と観光消費額がともに減少傾向にある。特にスキー客をはじめとする冬季の観光旅行者の落ち込みが大きい。一方、外国人旅行者については、日本政府の、ビジット・ジャパン・キャンペーン（2010年までに1,000万人の訪日外国人誘致）の展開などにより、東アジアを中心に急増しています。又、外国人宿泊者数も東アジアを中心に急増し平成18年は平成11年と比べ約4倍の18.4万人に達している。

2010年は御柱祭の年であることから観光客の増加が期待される。

廣田（2008）の試算によれば長野県の延利用者数と観光消費額の相関関係は相関係数が0.41と両者には強い関係はない。その理由としては、①日帰り客が多いこと②日帰り客の一人当たり消費額が少ないことをあげることが出来る。

観光旅行者数・消費額の動向

項目	ピーク時 (A)	現状 (B)	比較 (B/A×100)
観光旅行者数	10,764万人 [平成3年]	8,756万人 [平成18年]	81.3%
観光消費額	4,565億円 [平成10年]	3,241億円 [平成18年]	71.0%
スキー場利用者数	2,120万人 [平成4年度]	764万人 [平成18年度]	36.0%
外国人宿泊者数	*46,689人 [平成11年]	184,055人 [平成18年]	394.2%

資料：長野県観光部 (※外国人宿泊者数はピーク時でない)

観光旅行者数及び観光消費額の推移

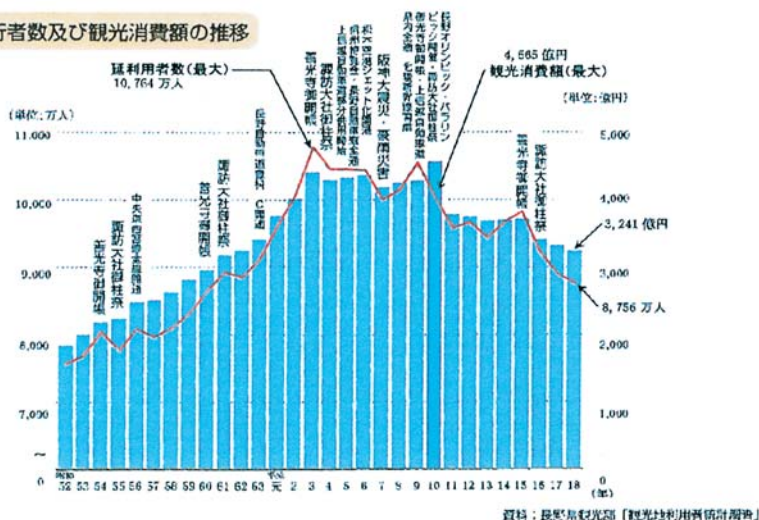


図1 長野県観光の現状

このような長野県観光の現状を踏まえ、長野県は「観光振興計画（2008-2012）」を策定した。基本的な達成目標は以下の4つである。

(4つの目標)

	目標の内容	2008年	2012年
1	県内の観光サービスに対する満足度	38.7%	50%
2	観光消費額	3,141億円	4,000億円
3	観光旅行者数	8,756万人	1億人
4	外国人宿泊者数	18.4万人	37万人

(出所) 筆者作成

これを実現させるための行動目標は以下の4つである。

①「もう1箇所(観光する)」②「もう1泊(宿泊する)」③「もう1コイン(500円)を使ってもらう」④「もう1度(訪問してもらう)」

これを実現させるためには、もう1回何かをしてもらう観光振興の戦略が必要である。

II 諏訪地域(岡谷市と諏訪市)の産業等の比較

表-1は長野県19市の主要統計の比較である。

1 長野県における位置づけ

長野県に占める諏訪市の面積、人口、年間商品販売額はそれぞれ、0.8%、2.4%、3.4%である。一方、岡谷市はそれぞれ、0.6%、2.4%、2.6%であった。

各指標は両市とも極めて低い数字ではあるが類似している。

2 諏訪市と岡谷市の比較

諏訪市は岡谷市と比べ人口はほぼ同じであるが、面積は約1.3倍、年間商品販売額は約1.4倍と多くなっている。他方、工業(事業所数)は65%、製造製品出荷額で見ると60%にすぎない。諏訪市は商業での年間商品額に、岡谷市は製造製品出荷額に比較優位をもつ。つまり商業の諏訪市、工業の岡谷市と大雑把に括ることが出来る。

III 諏訪地域の観光開発

1 諏訪地域の観光の特徴

(1) 諏訪地域の位置づけ

長野県に中央に位置する諏訪地方は周辺の交通アクセスに恵まれている。鉄道では東京から中央本線の特急で約2時間、名古屋からも約3時間で行くことが出来る。一方、高速道路を使用すると東京から中央自動車道で約2時間30分、名

表 1 長野県 19 市主要統計

市 別	面積 (H17.10.1)	世帯数 (H17.10.1)	人口 (H17.10.1)	人口集中 地区人口 (H17.10.1)	人口集中 地区面積 (H17.10.1)	商業 (H19.6.1 飲食店除く)	
						商店数	年間商品販売額
	km ²				km ²		万円
長野 県	13,562.23	780,245	2,196,114	764,004	176.96	27,362	583,218,741
長野 市	730.83	141,030	378,512	250,958	47.13	4,912	147,797,498
松本 市	919.35	89,266	227,627	143,409	30.69	3,445	128,578,573
上田 市	176.73	46,806	123,680	48,148	12.60	2,008	46,312,524
岡谷 市	85.14	19,661	54,699	46,082	11.56	692	14,937,627
飯田 市	658.76	37,350	108,624	36,512	9.55	1,588	25,578,606
諏訪 市	109.06	20,796	53,240	17,742	4.29	821	20,206,904
須坂 市	149.84	17,863	53,668	23,014	5.47	632	7,402,628
小諸 市	98.66	16,251	45,499	12,263	3.71	493	10,094,507
伊那 市	207.64	22,069	62,869	12,502	4.48	844	18,684,009
駒ヶ根 市	165.92	12,035	34,417	8,019	2.21	477	6,557,801
中野 市	112.06	14,591	46,788	12,915	3.13	643	8,287,897
大町 市	464.84	10,439	29,798	7,535	2.55	385	4,299,494
飯山 市	202.32	7,802	24,960	5,436	1.52	353	3,955,353
茅野 市	266.40	21,529	57,099	12,507	3.94	569	9,561,997
塩尻 市	290.13	24,860	68,346	34,086	7.95	742	16,409,748
佐久 市	423.99	35,362	100,462	20,504	6.08	1,287	19,940,549
千曲 市	119.84	21,251	64,022	21,037	6.50	693	12,650,834
東御 市	112.30	10,212	31,271	5,780	1.69	307	5,743,475
安曇野 市	331.82	32,743	96,266	8,672	2.36	933	16,901,350
市 別	工 業 (H19.12.31) (従業者 4 人以上の事業所)		事業所数 (H18.10.1)	総農家数 (H17.2.1)	小学校児童数 (H20.5.1)	中学校生徒数 (H20.5.1)	
	事業所数	製造品出荷額等					
	万円						
長野 県	6,358	703,320,316	119,608	126,857	127,126	64,920	
長野 市	637	49,030,928	20,883	13,166	21,741	10,274	
松本 市	404	62,834,166	13,777	5,666	12,797	6,004	
上田 市	496	58,068,838	8,472	4,360	9,492	5,039	
岡谷 市	341	20,823,783	2,999	553	3,093	1,495	
飯田 市	370	31,390,767	6,914	4,890	6,359	3,240	
諏訪 市	222	12,672,270	3,770	1,214	3,043	1,426	
須坂 市	195	12,936,756	2,721	2,346	3,192	1,539	
小諸 市	119	12,873,827	2,308	2,608	2,538	1,307	
伊那 市	190	21,514,953	3,587	4,216	4,278	2,140	
駒ヶ根 市	123	17,143,928	1,991	1,989	2,115	1,041	
中野 市	116	9,391,765	2,230	2,889	2,869	1,475	
大町 市	61	10,027,774	1,877	1,959	1,771	951	
飯山 市	28	3,790,046	1,313	2,907	1,398	761	
茅野 市	244	24,714,461	2,812	2,738	3,383	1,606	
塩尻 市	220	65,492,942	3,095	3,158	3,884	2,038	
佐久 市	309	24,118,048	5,180	4,721	6,072	3,008	
千曲 市	235	20,873,415	3,257	3,735	3,656	1,929	
東御 市	108	13,380,896	1,443	2,685	1,923	966	
安曇野 市	273	95,545,769	3,938	-	5,824	2,921	

世帯数・人口は平成 17 年国勢調査

(出所)「諏訪市の統計」(平成 20 年版)長野県諏訪市

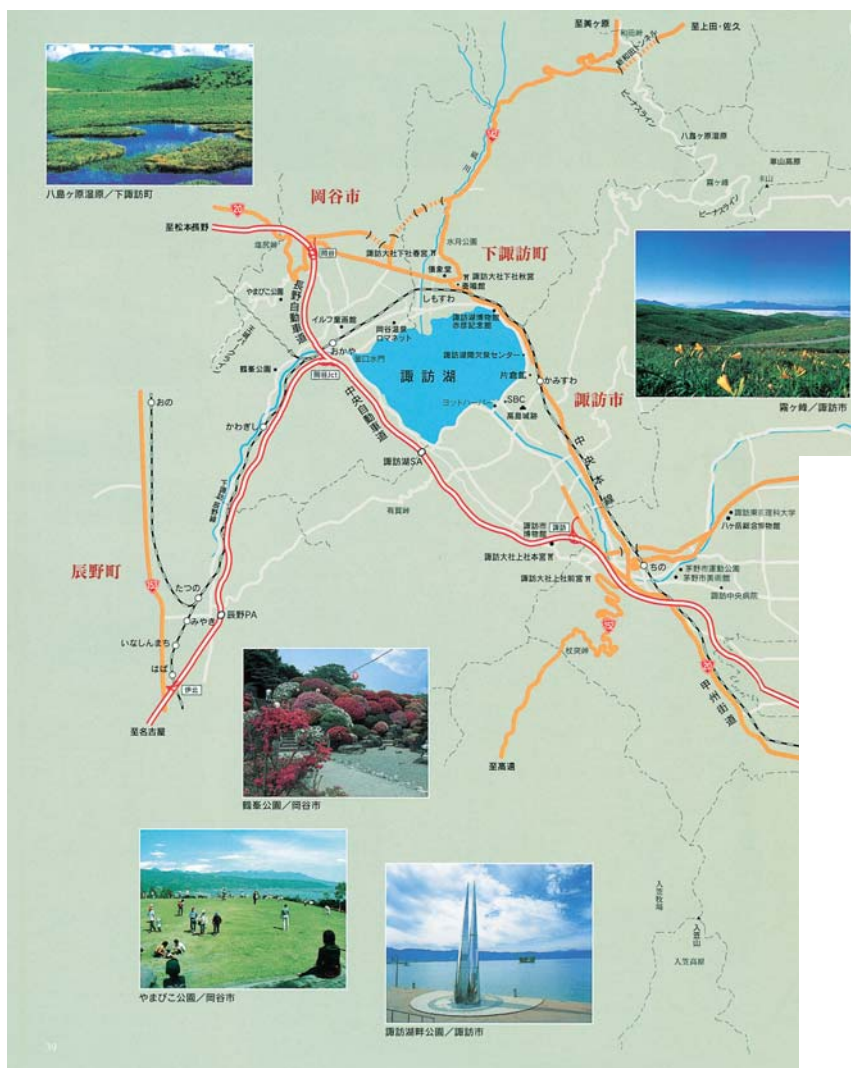


図3 諏訪地域の観光スポット

(諏訪地域の観光) —平成 19 年

	観光客数 (千人)	観光消費額 (百万円)
岡谷市	427	261
諏訪市	8,051	23,889
下諏訪町	4,058	5,637

(出所) 筆者作成

(3) 諏訪地域の発展の方向性と施策展開

長野県の 10 の広域行政圏の観光振興策の計画化によれば 2008 年に調査した上田 (上下地区) は「歴史と自然が輝きおもてなしが彩る真田氏ゆかりの地」、佐久は「人と水と緑のふれあいサイト、健康長寿の高原のふるさと」に対して諏訪地区は「体験して初めてわかる、新しい発見と感動あふれる滞在型観光地「諏訪」への進化である。

具体的には、上田市の観光開発は温泉リゾートやスキーリゾート、真田幸村と風林火山、観光振興は水を軸としたまちづくり (千曲川のため池) である。佐久市内の観光開発は「佐久鯉まつり」や「バルーン (熱気球)」である。諏訪地区の具体的な事例は以下の諏訪市と岡谷市の観光開発・地域開発の各論で述べる。

2 岡谷市の観光開発

(1) 第 4 次岡谷市総合計画 (2009-2018)

前期基本計画 (2009-2013)

重点プロジェクトは「たくましい産業の創造」と「輝く子どもの育成」であり 5 つの基本目標が立てられている。

- ① 基本目標 1. 「魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち」
- ② 基本目標 2. 「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」
- ③ 基本目標 3. 「自然環境と暮らしが調和した安全。安心なまち」
- ④ 基本目標 4. 「生涯を通じて学び豊かな心を育むまち」
- ⑤ 基本目標 5. 「快適に生活できる都市機能の充実したまち」

観光に関しては基本目標 1 の産業振興の中に観光の振興がある。特色ある観光

振興と観光客の受け入れ整備により観光客数を現在の（2009年）の43万人から46万人（2013年）に増加させる。その他の観光関連内容は基本目標3の環境保全の推進の中にある自然環境の保全である。地域の特性の応じた自然環境の保全との触れ合いの推進によりこどもエコクラブ登録数を現在（2009年）の2団体から2013年には33団体に増加させる。又、基本目標4の文化・スポーツに振興の中で文化施設の整備・活用と文化活動の促進支援により文化財ボランティア活動を現在の50人から70人に増加、基本目標5では充実と良好な都市景観の保存と創造（都市景観の整備）や都市緑化の推進、公園の整備に力を入れている。

(2) 岡谷市のイメージ

岡谷市によるイメージ調査によれば「湖」「山」「観光地」で関心が高いコンテンツは「諏訪の展望」「桜並木」「蒲焼」「つつじ」であった。

(3) 今後に向けた観光開発の方向性

以下の点を挙げている。

- ① 自然が美しい冬の温泉地
- ② ワカサギ、白鳥、スケートの冬の観光
- ③ 「ものづくりのまち」「シルク、うなぎの特産物」をPR
- ④ 産業観光都市としての認知・関心は途上にあるため強い
- ⑤ 近隣の観光コンテンツ「諏訪湖花火」「たてしな高原」「御柱祭」や諏訪市や下諏訪町との広域連携

(4) 今後の観光開発の施策

- (i) これからの観光は「まちじゅう観光」とする。

旅行形態が個人が71%なので「まち歩き」が重要。まちを歩くことにより、街並み、自然、景観、歴史、伝統、文化、生活、食に触れることである、」そこでは「味わう」「感じる」「触れる」「話す」「体験する」という五感が楽しめる。

- (ii) 岡谷市には製糸工場跡など近代化産業の遺産があるので、これらのまち歩きは地域の活性化となる。

3 諏訪市の観光開発

1. 諏訪市の観光客数は850万人（平成19年）であるが過去5カ年をみると平成19年は急増している。その要因は上諏訪温泉と諏訪湖の観光客の増加であった。一方、観光施設の利用件数も有力資源である「諏訪高原城」や「諏訪湖間欠泉センター」が大きく寄与している。
2. 諏訪市の地域開発はまちづくりであり「自分たちのまちは自分たちでつくる」を目標に平成13年度から平成17年度までの5年間に「おらほのまちづくり」を達成した。地区でまちづくりのアイデアを出し市が資金援助をする草の根のプロジェクトで5カ年間に18件が採択された。
住民が計画し、予算を管理し、計画を実行し、完成した公園や遊歩道などを自分の手で育てていくものである。住民の手による環境意識や環境重視が反映されている。
3. 平成18年度からは「辻と小径のまちづくり」と称し市が事業補助金を供与している。前回同様、住民が自ら計画を立て、地域による協定を結び事象的に行う道路や景観の整備、建物などの改修に対して支援する補助金である。平成18年度は「寺のまち地区」、平成19年度は「寺のまち地区」の継続で地区の遊園地や火の見櫓、ガードパイプの建設や改修が含まれている。その他、「蔵まち地区」などで景観整備が予定されている。
4. 下諏訪では御柱祭りで知られる諏訪大社が鎮守し江戸時代は5街道である甲州街道と中山道の分岐点の宿場町として栄えた。また、温泉地、諏訪湖、八島高原などの有力な観光資源を持っている。一方、主産業は製造業であり戦前までは製糸業、戦前は時計、カメラ、オルゴールといった精密機械で栄えた。

しかし、1980年代以降の円高不況やバブル崩壊により中小企業が減少し、それに伴い、従業員の購買力は減少した。住民の購買力に依存していた商店街は寂れて言った。そこで商店街の活性化が叫ばれ、「ものづくり」が浮上した^(注3)。それを支えてきた知恵、や人材、能力を活用した新しいまちづくりが考えられるようになり時計やオルゴールの製作体験に必要な工房が設けられた。また、後継者不足からくる空き店舗の貸し出しが行われ

表 2

観光地別観光客数

年 度	総 数	上諏訪温泉 諏 訪 湖	諏 訪 大 社	霧 ケ 峰
平成 10 年	6,768,309	3,452,801	1,590,941	1,724,567
11	5,942,058	3,427,167	805,121	1,709,790
12	6,016,204	3,549,109	736,146	1,730,949
13	6,002,905	3,635,497	669,966	1,697,442
14	7,467,054	3,699,853	591,925	3,175,546
15	7,611,718	3,852,973	562,769	3,195,976
16	7,907,291	3,805,097	936,241	3,165,953
17	7,486,918	3,853,326	468,140	3,165,452
18	7,185,859	3,655,867	543,001	2,986,991
19	8,051,206	4,272,832	593,923	3,184,451

表 3

観光施設の利用状況

(単位：件)

年 度	霧ヶ峰リフト	霧ヶ峰 キャンプ場	温泉植物園	諏訪高島城	諏訪湖間欠泉 センター
平成 10 年	406,856	2,715	29,275	56,936	78,091
11	314,095	2,119	25,360	53,693	79,496
12	277,752	2,227	20,518	54,573	74,453
13	280,155	2,358	19,441	57,170	66,327
14	259,310	2,299	16,802	52,161	50,287
15	218,772	1,393	14,966	47,016	44,061
16	188,376	1,809	－	43,616	40,440
17	336,469	1,308	－	43,331	68,241
18	336,805	1,415	－	41,170	104,258
19	367,992	1,872	－	130,870	130,378

(出所)「諏訪市の統計」(平成 20 年版)長野県諏訪市

調査の時に訪れた店舗では若者が革製品を販売していた。

5. 歩きながら諏訪市を楽しむ。

諏訪市の MTO (商工会議所) 協議会は以下の 4 つのコースを紹介している^(注 4)。第 1 が「景観・芸術コース」で「片倉館」「諏訪湖間欠泉センター」「サ

表4 18事業

	NO.	実施地区・団体名	事業名	総事業費(円)	市補助金(円)	地元負担金(円)	直接参加 延べ人数 (はいり人数)
13 年 度	1	有賀区	有賀城址公園及び散策路整備事業	4,631,000	4,400,000	231,000	113
	2	大熊区	大熊ふれあい公園整備事業	5,501,753	4,845,000	656,753	94
	3	中洲地区 区長会	地域資産を活かした中洲地区 おらほのまちづくり事業	4,835,000	4,835,000	0	60
	4	霧ヶ峰強清水 自治会	強清水湿原植物園整備事業	4,780,250	4,780,000	250	100
14 年 度	5	神戸区	火燈(ひとほし)公園整備事業	5,578,650	5,000,000	578,650	304
	6	赤羽根町	さと山ふれあい整備事業	5,350,000	5,000,000	350,000	160
	7	神宮寺区	神苑(しんえん)整備事業	5,035,000	4,935,000	100,000	265
	8	上野区	いこいの広場整備、県道沿い 花づくり事業	860,357	850,000	10,357	95
	9	眼石区	石碑探訪遊歩道整備事業	4,534,900	4,134,000	400,900	56
15 年 度	10	田辺区	宮川親水公園整備事業	5,747,000	4,947,000	800,000	430
	11	文出区	宮川公園整備事業 (憩いの散歩道づくりと公園づくり)	4,842,000	4,700,000	142,000	364
	12	尾玉町	小鳥と緑花を楽しむ散策路 整備事業	3,332,699	3,295,000	37,699	193
	13	本町二丁目駅前 アミコ子イ仮遊委員会	上諏訪駅前広場緑化事業	5,068,871	4,800,000	268,871	57
16 年 度	14	細久保区	「子の神公園」整備と子之神 神社周辺整備事業	5,050,992	4,300,000	750,992	128
	15	普門寺区	「足長丘公園」整備事業	5,736,780	5,000,000	736,780	261
	16	湯の脇一区	児玉石公園整備事業	4,683,035	4,585,000	98,035	310
17 年 度	17	大和区	大和の里 くるっと一周 散策の小径整備事業	5,020,515	4,947,000	73,515	332
	18	豊田区長会	舟渡山公園・さざなみ・田園 ウォーキングコース整備事業	5,114,665	4,970,000	144,665	379

(出所) 参考文献・資料5のP.8

ンリツ服部美術館」など合計約 7.4km の散策コース，第 2 は「文学の山路コース」で「高島城」「大和田の小路（江戸時代の水路）」「文学の道公園」など合計約 11.2km，第 3 のコースは「山の手健脚」コースで市の天然記念物の枝垂れ桜や和泉式部の墓もあり隠れた散策コース（合計約 9.6km）で石を祭神として祀る珍しい神社（児玉神社）や医師団の手前の手水が温泉という「手長神社」がある。第 4 のコースは「酔いの通い寺」と言い国道 20 号線にある歴史の香り漂う街並みと 5 件の造り酒屋がえる。呑み歩きにコース。（合計約 8.9km）

以上のように 4 つのコースから観光客は時間と関心のある分野により自由に選択組み合わせを子ナウことが出来る。どれも徒歩で 10Km 程度であるのが魅力的である。

IV 東信州（上田市，佐久市）と諏訪地域の観光の比較

以下の表は平成 18 年の長野県の主要観光地と延利用者数のベスト 20（抽出）を示したものである。

順位	市町村名	観光地	延利用者数（万人）
1	軽井沢	軽井沢高原	782
5	諏訪市	上諏訪温泉，諏訪湖	421
12	諏訪市・下諏訪町	諏訪大社	127
13	上田市	菅平高原	108
18	上田市	別所温泉	87
20	下諏訪町	八島高原	83

（出所）参考文献・資料 1 の P.26

ベスト 20 のトップは軽井沢であるが，上田市や諏訪市も上位を占めている。両市とも温泉や高原の有力な資源を持っているからである。その点では佐久市と岡谷市は資源が不足して観光客数の規模や減少に繋がっている。今後は上田市と諏訪湖視の観光振興の競争が更に激しくなると予想される。しかし，それが岡谷

市や佐久市の観光にプラスになればよいし、低迷する長野観光の活力となることが望まれる。

V まとめ

諏訪市と東信地域を比較し共通する観光資源は温泉と高原である。しかし、他と比べ比較優位を持つと思われる有力な資源は上田市の別所温泉と菅平高原（スキーなどのスポーツ観光地）、真田氏の居城跡である上田城址公園の3つは他の都市と比べ大きな集客力と魅力ある資源として評価が高い。同様に諏訪地区の「諏訪湖」や御柱祭の「諏訪大社」は全国に知られており結果として主要観光地ベスト20の表の順位にランクされている。佐久市や岡谷市は観光資源の規模は小さく、又、全国的に訴求する有名な資源に恵まれていない。但し、佐久市はバルーン（気球）で、岡谷市はシルクの都市としての歴史的文和遺産でアピールの努力をしている。岡谷市は昔の製糸工場や邸宅が保存されており産業文化都市として富岡の製糸工場とともに世界遺産の登録を希望している。

従って、諏訪地域の今後の観光開発と観光戦略は諏訪市を軸とし岡谷市への波及効果を狙う必要がある。両市の共通の資源のほか他に無い資源として岡谷市の産業文化観光とエコツーリズム、諏訪市の諏訪湖を活用したイベントづくり、ものづくりの体験、更に歩いて巡る4つのコースの活用など自然資源と人文資源を有効に利用した観光開発や観光振興の戦略は十分の立てられると考えられる。

以上より以下の提言をしたい。

- (1) まず知ってもらうことから諏訪地区の観光資源もPRを強化する。（特に他と差別化される資源を取上げる。例えば産業文化観光や散策コース）
- (2) 旅行者と地域住民との交流の場を拡大する。（ユニークなイベントづくり）
- (3) 国のビジットジャパンキャンペーンを活用したが帰国人観光客の誘致を強化する。
- (4) 冬はスキー、夏は湖の新たな通年観光（諏訪湖の自然を発見する旅など）を強化する。
- (5) エコツーリズムや散策を見直し誰でもいつでも参加できる健康的な観光を企

画する。

- (6) 体験ツアーを推進する。
- (7) 地産地費の運動を推進する。
- (8) 岡谷の歴史をメディアを通して広く知らせる。

注

(注1) 参考文献・資料6のP.3を引用

(注2) 以下の5つを実施する。

- (1) 国際競争力の高い魅力ある観光地づくり
- (2) 海外との観光交流を拡大
- (3) 旅行者ニーズに合った観光産業の高度化を支援
- (4) 観光分野に関する人材の育成と活用を推進
- (5) 休暇取得の推進や日本人海外旅行者の安全対策など観光をしやすい環境の整備

(注3) 原雅廣「ものづくりとまちづくり」

—NPO 法人匠の町イモスワアキナイプロジェクト」を参照

(注4) 参考文献・資料8のパンフレットを参照

参考文献・資料

1. 廣田政一（共著）「中部地域のまちづくり—主に長野県東信地域を対象にして—」2008年3月，愛知大学経営総合科学研究所叢書32
2. 「第4次岡谷市総合計画（2009-2018）基本構想—前期基本計画（2009-2013）長野県岡谷市
3. 「岡谷市の観光と今後の展開について」岡谷市役所商業観光課
4. 「諏訪市の統計」（平成20年度版）長野県諏訪市
5. 「諏訪市おらほのまちづくり記録集」平成18年2月
6. 「諏訪市勢要覧」2006年3月
7. 「諏訪湖端ポート」（2009.4-2010.3）諏訪市経済部観光課
8. 「歩きながら楽しむ諏訪のまち」諏訪TMO推進本部（商工会議所）
9. 「ウオッチ事業案内」セイコーエプソン(株)
10. 「岡谷製糸業の展開（ふるさとの歴史・製糸業）農村から近代工業都市への道—」平成

9年8月 岡谷市教育委員会

11. 観光白書（平成21年版）観光庁
12. 拙稿（共著）（2003）「国際経済開発論」学文社
13. ———（2001）「持続可能な観光開発への国際協力」日本観光学会誌 No. 38
14. ———（2008）「国際協力における観光開発プロジェクトの経済評価—シャドウプライス手法の導入と適用—」目白大学総合科学研究 第4号
15. ———（2009）「観光公共財の理論的アプローチ」2009年10月，日本観光学会全国大会報告書